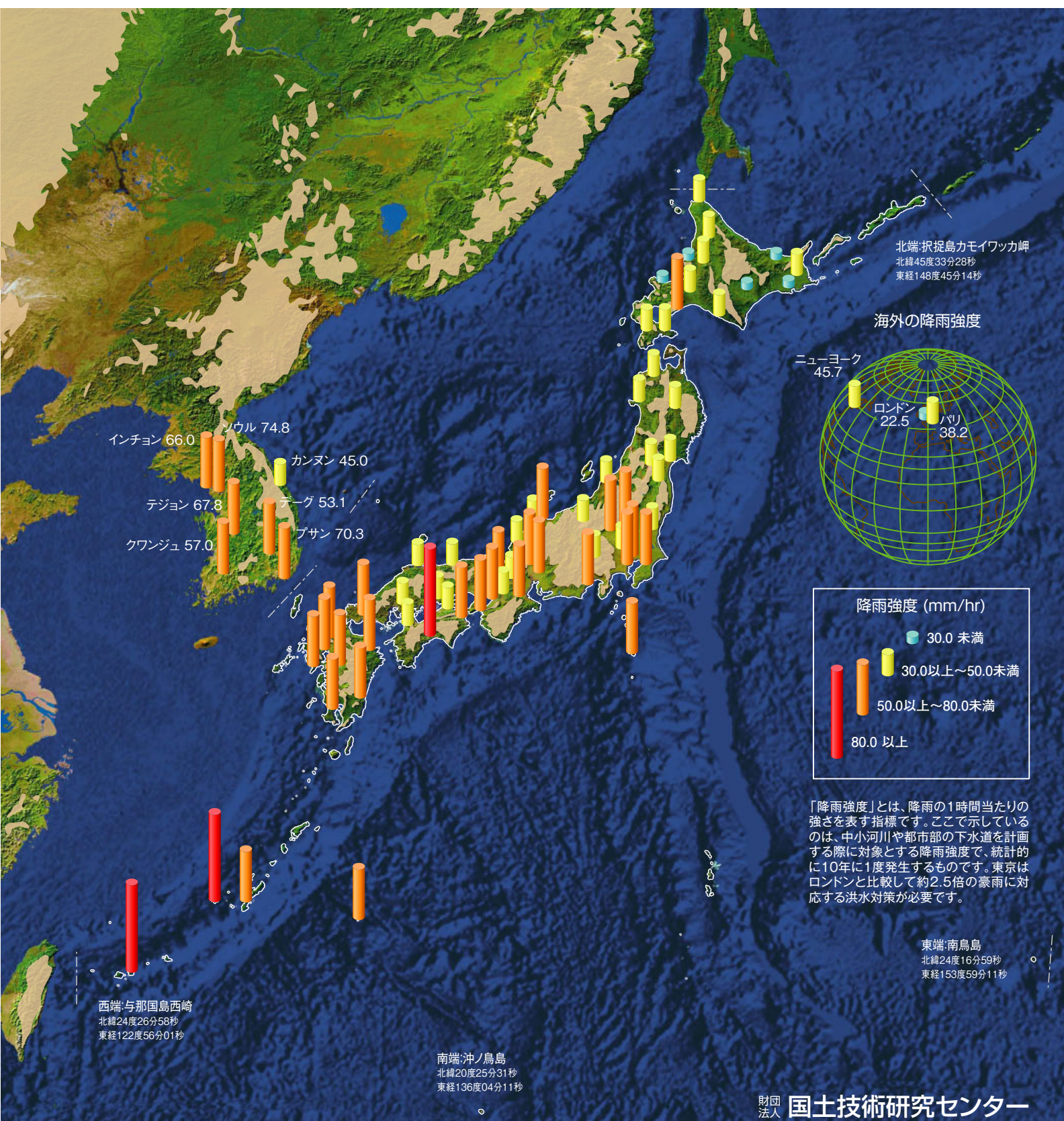


JICE REPORT

2009 / 第15号

REPORT OF JAPAN INSTITUTE OF CONSTRUCTION ENGINEERING



今号の表紙は、中小河川や都市部の下水道の計画の対象となっている降雨の強さを示したもので、1/10の降雨強度(mm/hr)といいます(統計的に10年に1度発生する規模の降雨の強さを示しています。)。ここでは、アメダスの統計データより算出した雨量強度のデータを示しており、都道府県庁及び北海道支庁の所在地の近傍並びに離島のデータを示しました。オレンジ色で示している50mm以上80mm未満の降雨強度は、気象庁の予報用語では「非常に激しい雨」と定義しており、滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)状態で、都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込んだり、マンホールから雨水が噴出したりするなど、多くの災害が発生する状況とされています。

アジアモンスーン地域に位置する日本は、西岸海洋性気候のロンドンやパリと比べて強い雨が降ることがこの絵から分かります。

わが国は、全国土面積の10%が氾濫の危険がある地域(氾濫区域)で、そこに総人口の50%、国民の資産の75%が集中しています。一方、イギリス(イングランド・ウェールズ)は、約10%の氾濫区域に人口の8%ほど、またアメリカは、全国土面積の約7%の氾濫区域に総人口の9%ほどしか占めていないことから、欧米と比較してわが国の土地利用の厳しさがわかります。

私達は、このような厳しい自然条件の中で暮らしています。

(韓国のデータは、韓国建設技術研究院(KICT)よりご提供いただいた。)